２０１７年度

学校関係者評価委員会

２０１７年６月

学校法人　YIC 学院

専門学校　YIC リハビリテーション大学校

平成 29 年度　学校関係者評価委員会　議事録

YIC リハビリテーション大学校　会議室
平成 29 年 6 月 14 日　15:00～16:30

出席者
（委員）宮内順子，信久美佐子，綿谷昌明，白川　剛
（学校：事務局）中村校長，山本副校長，三井事務長，鹿毛教務課長，
渡辺作業療法学科長，藤井理学療法学科長，上原教員

1．校長あいさつ（中村校長）
2．定足数確認，委員長の選出（鹿毛）
定足数確認．同窓会会長　金井先生，保護者代表　廣島さんが欠席されるとの報告．既定の過半数を超えるため本会議は成立する．
委員長に信久委員，副委員長に綿谷委員を推薦．全員の賛同により承認された．
3．議事（信久委員長，綿谷副委員長）
（1）H28 年度の報告
・平成 28 年度自己点検評価について（上原）
27 年度から評価（◎○×）を上げた項目，下げた項目について説明．

・平成 28 年度の学科報告（資料参照）（渡辺・藤井）
国家試験合格率・就職率・退学率の報告．両学科とも退学率の目標３％を上回っている．休学中の学生の退学がほとんどである．国家試験合格率は作業療法学科では全国平均並み，理学療法学科では全国平均を下回っている．理学療法学科では国家試験に出願はしたが受験しなかった者，国家試験に合格したが別の職種に就職を希望する者等初めて経験するケースがあった．
宮内委員：作業療法学科の 1 学年の定員は 40 名ですが，在籍者数が 75 名は厳しい．臨床現場の作業療法士にも責任はあると思うが学校側の取り組みはいかがか．
渡辺学科長：広報活動を学校単体で行うことが厳しい，また商工系の高校卒業後の就職状況が改善されており，商工系からの入学者が減っている．
三井事務長：昨年度のオープンキャンパスは過去最低の参加者数であった．今年度は少し盛り返している印象．作業療法士会でポスターやリーフレットを作成し啓蒙活動を行っていることが実を結んできているように感じる．
信久委員：作業療法士会でも引き続き取り組みたい．

・平成 28 年の重点項目と取り組みについて（検証）（鹿毛）
重点項目（1）国家試験 100％達成
①国家試験対策講座，模擬試験は教員が作成・実施したこともあり，かなりの労力をかけて

取り組んだ．100％達成にはならなかったが学校としては大切な課題であり 2017 年度も引き続き取り組みたい．

綿谷委員：国家試験に傾向の変化があったか．専門問題が取れないということはないか．

藤井：これまでの過去問でとけるような問題であった．専門が取れない学生は専門基礎も取れず不合格となっている．学力が低い学生の問題もあるが，実習がクリニカルクラークシップに変わったことも影響があると考えうる．

重点項目（２）教育の質の確保のためのシラバス（コマシラバス）の整備（藤井・鹿毛）

①新しいカリキュラムを実施するに当たり，すべてではないがコマシラバスの作成を進めている．これにより，科目の引継ぎが行いやすい，誰が何を教えているか見えやすいという点で，教える内容に抜けがなくなると考えている．

②外来講師の方々にはお願いしにくい面もあるが，ご紹介しているところ．

重点項目（３）リハビリテーション教育評価機構の認定を受ける（鹿毛）

昨年滞りなく審査を受け認定をいただいた．

重点項目（４）教材・備品の管理（鹿毛）

重点項目（３）と関連し，学校として必須の教材が備えられているかの点検を行い，間違えなくそろっていることを確認した．

（２）平成 29 年度重点項目と取り組みについて（計画）（山本）

重点項目（１）国家試験合格率 100％達成

4 年生への取り組み

①成績不良者に対して早期から個別指導を開始する．昨年度は何回かの模試の成績を見て個別指導を開始したが，今年度はオリエンテーション実施日に模試を行い，その成績から個別指導者を決定する．

②本人へのフィードバック

③専門分野の学力強化

②③は模試を繰り返し行うことで学生の経験値を上げていきたい．

1～3 年生への取り組み

①学力確認試験の導入

各講義や定期試験の中で国家試験を意識した内容にしていく．

②学内定期試験の難易度の調整・管理

担当者によって難易度が異なるため，国家試験に対応できる難易度で調整したい．

来年度入学生には，入学時から国家試験に向けてどう進んでいくのかイメージできるようなスケジューリングを行っていく予定．

重点項目（２）新カリキュラム作成

香川学園との合併や大学化については不確定であるが，大学化を念頭に置いたカリキュラムの整備が必要. 資料のスケジュールに添って作業を進め，今年度中にはある程度の形を作る. 来年（H30 年）7 月までに完成，届け出を目指す.

重点項目（３）入学者数増

特に作業療法学科を中心に取り組んでいく.

①オープンキャンパスにて，職種，学校，学科の魅力を全面的に伝える

特に学校・学科の特色を伝えることが必要.

②県内外において幅広く高校生へアプローチする

③各種メディア，ホームページの有効活用

④高校訪問の充実

高校生にオープンキャンパスに来てもらうための取り組みとして②～④をしっかり取り組む.

綿谷委員：山口県作業療法士会で何か取り組んでいるか.

宮内委員：高校生の 1 日作業療法体験を病院・施設で受け入れて作業療法士の仕事を体験してもらっている.

渡辺：職業フェアで作業療法のブースに臨床現場で働いている作業療法士に来てもらった.

信久委員：山口県の各地区で，地元のイベントへの参加，商業施設での啓蒙活動など行っている.

中村校長：近畿大学ではインターネットで学生個人の情報を集めて，学生募集をしている．そういうことを意識した対策も必要な時代になっている.

三井事務長：オープンキャンパスの情報は資料請求があった高校生へ送っている．その他高校訪問の際にポスターを掲示していただいている．個人的にホームページを見て参加する高校生もいる.

（３）その他

信久委員：私たちも職能団体として啓発していければと思う.

4. その他（鹿毛）

（１）学校の年間予定について　　国際交流の日程訂正（8 月最終週→9 月最初の週へ）

（２）学校パンフレット・募集要項について　　ご意見があれば提案いただきたい.

（３）その他　　会議の開催が年 2 回から 1 回となったことに伴い次年度から委員の委嘱費が 5,000 円とさせていただく.

本日の内容は議事録作成後，信久委員長，綿谷副委員長に内容を確認していただいたうえで各委員へ郵送させていただく.

以上

議事録作成者

上原奈緒子

鹿毛　治子